

八代六郎 やしろ 海軍軍人。安政七年一月二日尾張國生れ、昭和五年六月二十日没（八六一一九三）。松山庄七の次男、明治二年八代逸平の養嗣子。海軍兵學校卒。十八年海軍少尉任官後累進、四十四年海軍中將。この間、ウラジオストク駐在ロシア公使館附となりロシアの國情を研究、イロワニスキイ著『露國史』（明治二十六年六月二十日水交社『水交社社記專』第參拾六號附録）を譯出。開戦論を唱へ、日露戦争では淺間艦長。次いでドイツ公使館附、第一艦隊司令官、莫鎮守府練習艦隊司令官等歴補。大正二年第二次大隈内閣海相時、シーメン入事件直後の海軍節制に當り、その功により垂族に列し男爵授爵。うち第一艦隊司令長官、佐世保鎮守府司令長官、七年海軍大將、軍學參議官、十四年樞密院顧問官。

『八代海軍大將畫翰集』（城山會編、昭和十六年九月十日尾張徳川製粉會）刊。

